

Q： 月案、週案を書くときのエピソードが思い浮かばない場合はどうしたらいいのでしょうか。

A： 実際の子どもの姿から理解したことをもとにして保育を計画することが大切ですが、そのための一つの方法が日常の子どもの生活のエピソードを取り上げた考察です。そのエピソードが思い浮かばないのはなぜなのでしょう。もしかしたら指導計画を作成するために特定の目的に合う適切なエピソードを探すことを意識しすぎているということはないでしょうか。

日々の記録では、まずご自身の心に残った子どもの姿、何か気になった子どもの姿を記録していくこと大切です。それを続けることによって、子どもの育ちや自分の保育の課題、それまで気づかなかったことにも目が向いていくようになると思います。それは、指導計画の作成につながるものです。

子どもたちとの一日の生活を通して心に残るエピソードが何もないということは、おそらくないものと思いますが、仮に何も思い浮かばない、書きたいと思うことがないという時には、そういうご自身の思いを振り返って書いてみてはいかがでしょうか。

Q： 短期の指導計画の振り返り・評価等の普段活用している形式での子どものエピソードをうまく取り入れた記録の仕方や方法の具体例、具体的な参考資料等があれば教えていただきたいです。

Q： エピソード記録について具体例、ポイント、説明があればもっとわかりやすく実践しやすいのではないかと考えた。

A： ご質問いただいた「普段活用している形式でのエピソード」がどのようなものかよくわかりませんので、エピソードの記録について、一般的なことをお伝えしたいと思います。

エピソードの記録は、子どもの生活の記録ですが、同時に保育者自身が子どもをどのようにみているのか（子どもの姿をどう理解したのか）についての記録でもあります。まずはあまり構えずに、その日、心に残ったことを日々書きとめること、それを積み重ねていくことが基本となります。整った記録を残そう、正しい考察をしなくてはと構えたり、気負いすぎたりしてしまうと、結果として子どもの本当の姿から離れてしまうことがあります。また、結果的に負担感が増して、継続することが難しくなることもあるようです。継続していくためには、継続できる方法でより子どもの生の姿を捉えていくことができるような工夫をしていくことが必要でしょう。日常的にはメモのようにできるだけ書き留めることを基本として、その中で特に考えたい事例、考えさせられること、心に残ったことについて保育者自身の思いや考察を含めて記述していくことをお勧めしたいと思います。日がたつてからの思い出し記録では、あとから自分の中で整理した姿が記述されることがあって、その時の子どもの思いから離れてしまったり、その場の活動の雰囲気が伝わらなかつたりすることもありますので、まずはその日のうちにできる形で（メモのような簡単なかたちでも）記録することを大切にしたいものです。それをもとに後から改めて振り返り、考察して記録しなおしたり、他の保育者と話し合ったりすることも大切です。記録は継続して重ねていくことによって、毎日接しているからこそ気づきにくい子どもの小さな変化に気づくことがあります。そして自分の子どもや保育の見方の傾向（くせ）や偏りに気づくことがあり、保育の見直しにつながります。

今回の講習資料の中ではいくつかのエピソードをご紹介しましたが、それらはいずれもメモしたものを保育研究会や研究のためなどに後日改めて記述し直して考察したものです。こうしたことを時々意図的にやりたいも

のですが、何よりも日常的に記録することを積み重ねること、それが継続できる方法で続けることが基本だと思います。文章でまとめることが目的ではなく、自分が子どもをどうとらえたのかを振り返ること、書くことを通して考えること、そしてそれを積み重ねることによってその子の育ちの道筋を理解することが目的です。文章化することが苦手なので記録は億劫だとおっしゃる方もいらっしゃいますが、きれいにまとめることを急がずに、まずは日常のこととして記録を続けることです。一方で、文章を書くことが好きな人、得意な人、記録に慣れている人は十分に子どもの立場で考えないままにまとめ上げてしまう傾向があるので、ありのままの子どもの姿を描くように気を付けたいものです。

自分がとらえた子どもの姿を他の保育者と見合ったり話し合ったりすることも大事です。それぞれの記録について、記録としての良し悪しを評価したり、保育の課題を指摘しあったりするのではなく、そこでとらえられた子どもについて多様な見方を自由に話し合うことが子ども理解を深めるために大切なことです。そのためには自由に話し合いのできる園内の関係づくりも大切です。経験や立場によらず、フラットな関係で子どもについての理解の幅を広げられるような雰囲気大切にしたいものです。

保育の記録、エピソード記録・記述についての参考図書はいろいろ出版されています。多様な取り組みも紹介されていますので、それぞれご自分に合ったものを探してみてください。安価で園内の職員の研修にも役立てられるものとして、文部科学省の指導資料があります。いろいろな具体例も紹介されています。講習内でもご紹介しましたし、すでにお持ちの方が多いと思いますが、改めてご紹介します。

文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集 指導と評価に生かす記録』（平成25年7月、チャイルド本社）
同『幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開』（平成25年7月改訂、フレーベル館）
同『幼児理解に基づいた評価』（平成31年3月、チャイルド本社）